

# スポーツ大学生の喫煙と呼気CO濃度（2016年度）に関する一考察

野村 昂太朗 （生涯スポーツ学科 学校スポーツコース）

指導教員 川合 英之

キーワード：喫煙，呼気一酸化炭素濃度，大学内全面禁煙

## 1. 緒言

喫煙の有害性が明らかになってきている今日では、医療機関などの公共の場はもとより各地の大学でも敷地内全面禁煙の取組を検討している。本学は、2003年に全国で初のスポーツ大学として開学して以来、大学構内全面禁煙であり、タバコの影響や禁煙に対する方策を検討するため、毎年4月に行われる健康診断の際に、全学学生に対しタバコに関する調査を実施するとともに呼気一酸化炭素濃度（以下、呼気CO濃度）を経年的に測定してきた。

本研究では、2016年度における本学学生の喫煙状況と呼気CO濃度を中心にその結果を報告し、今後の更なる充実した禁煙支援・健康教育を進めることに資したいと考えた。

## 2. 研究方法

2016年度在学生の喫煙者率の推移及び喫煙意識についてアンケートを行った。加えて、呼気CO濃度を計測し、その結果との関連性を考察した。また、喫煙者率の推移と大学構内全面禁煙の取組についての意見も検討した。

## 3. 結果と考察

### 1) 喫煙者率の推移

1・2年次生の喫煙者率は0%だった。3年次生は8.1%で、4年次生は14.4%だった。進級につれて上昇している喫煙者率を減少させるためには、全学でタバコについての対策や支援活動を考え、それらを積極的に実施していくことが必要であると考えられる。

### 2) 呼気CO濃度

呼気CO濃度の数値のみでは、必ずしも喫煙者とは言い切れないと考えられる。一般的には喫煙者は非喫煙よりも高い数値が出ると予測されがちであるが、実際は、非喫煙者でも高い数値が出てくることがあった。非喫煙者の周囲の環境（喫煙者とよく一緒にいる、アルバイトを居酒屋やパチンコ店など喫煙者率が多い場所などでしている）によって呼気CO濃度の数値が高くなることもあると考えられる。

### 3) 大学の学内全面禁煙についての意見

学生アスリートとしてタバコに対して否定的な意見を持っている者が多く、呼気CO濃度の測定結果にも関連するものと考えられる。一方で、タバコに対する誤った知識を持っていたり、喫煙に対する肯定的な意見もあった。

## 4. まとめ

今回の本研究結果を活用し、学内において喫煙者・非喫煙者を問わず安心して受けることができる禁煙支援の取組と学生が共に学び合う健康教育を充実させることが重要であると考えられる。

## 引用・参考文献

叶多博美（2008）大学生の喫煙に関する知識の実態。茨城キリスト教大学紀要 社会・自然科学。（42）：325-336

野津有司（1993）大学生の呼吸器系に及ぼす喫煙の影響に関する疫学的研究。日本衛生学雑誌。48（2）：586-595